

令和2年7月3日

## 「インフラわくわくツアー」第一弾！

～インフラを巡る地域密着型ツアーを催行する旅行会社を募集します～

北海道開発局では、より多くの方にインフラに親しんでいただくために、ツアーのテーマに「歴史」はもとより、地域の「産業」、「文化」、「食」といった様々な要素を取り入れた「インフラわくわくツアー」を実施しています。

つきましては、「北見編」「釧路編」を催行する旅行会社を募集します。

「インフラわくわくツアー」は、北海道開発局の施設に加え、地域の関係機関の施設もメニューに取り入れることで、ストーリー性を持った見学メニューや解説を行い、インフラの整備と地域発展の関係を実感できる内容としています。

### 記

#### 1 ツアーテーマ

(1) （北見編）”五感で感じよう！『北見地方の農業の変遷』”

北見地方の開墾の歴史と農業生産の変遷、農業生産基盤整備の成果を実感する。

(2) （釧路編）”五感で感じよう！『北海道遺産「簡易軌道」とひがし北海道のゲートウェイ「釧路港」を巡る』”

釧路地方の歴史を学び、産業の変遷とインフラ整備の成果を体感する。

2 募集期間 令和2年7月6日（月）～令和2年7月17日（金）

3 申込み方法等 応募要領、申込み様式、申込み先等については、北海道開発局ホームページをご参照ください。

URL : <https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/renkei/splaat000001x1fw.html>

4 ツアー概要等 詳細は別紙をご参照ください。

※新型コロナウイルス感染症の影響によっては、募集を中止もしくは内容の変更を行う場合があります。

【問合せ先】国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

開発監理部 開発連携推進課 開発企画官 鈴木 武彦（内線5433）

開発監理部 開発連携推進課 開発専門官 長南 哉（内線5441）

北海道開発局ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/>



# ○ インフラわくわくツアー(北見編)

【概要】

## “五感で感じよう！”北見地方の農業の変遷”

### ツアーテーマ 『北見地方の開墾から現在』

- ◇北見地方の開墾は明治30年に北光社と屯田兵の入植により開始され、明治40年頃まで続き、開墾当時の主要作物は、豆類、イモが中心でした。続いてハッカ、その後タマネギの試作栽培が行われました。
  - ◇開田については、明治31年に北光社が水稻を試作するも成果を得ることは難しく、これを契機に水稻作が繰り返され作付面積が拡大していきました。大正末期には水田開発を目的とした土功組合(現在の土地改良区)により用水路(幹線・支線)が完成し、地域の水田開発を進められました。
  - ◇その後、第二次世界大戦による農業統制によりハッカの減反が進み、小麦、馬鈴薯等の代用食作付けが増大し、戦後は再びハッカの作付けが拡大し、昭和30年代にピークを迎えましたが、以降減少し昭和58年の北見ハッカ工場の閉鎖により自然消滅しました。その一方で、戦後の奨励強化作物としてビートの作付面積が拡大し、タマネギも需要増により作付面積が拡大しました。昭和45年には国の減反政策により稲作から畑作へと転換、その後の農業基盤整備の効果により畑作3品はもとよりたまねぎも安定的に生産され現在に至っています。
- ★本ツアーでは、こうした北見地方の農業の変遷を実際に現地を巡りながら実感していただけます。

### 催行予定

令和2年9月～10月の各月1回(全2回)【平日のみ可】(日程は調整の上決定)

### ツアー定員

各回 20名

### 諸条件等

■ツアーを企画する際は、以下「メニューリスト」から自由に選択いただけます。ただし、(★)印のメニューは必須とさせていただきます。この他にもグルメ、観光スポットなど行程に組み入れていただけます。

■メニューリスト「1」は自由見学となります。

■メニューリスト「2」では、明照寺の担当者が解説、ご案内します。

■メニューリスト「3」では、北見市の職員が解説、ご案内します。

■メニューリスト「4」「5」では、北見土地改良区の職員が解説、ご案内します。

■メニューリスト「6」「7」は月曜日が定休日(祝日の場合は翌日)となり、「6」はピアソン記念館の職員が、「7」は北見ハッカ記念館の副館長が解説、ご案内します。

■メニューリスト「8」「9」では平日のみの対応となり、「8」は北海道糖業(株)北見製糖所の職員が、「9」はJAきたみらいの担当者が解説、ご案内します。

※催行に当たり、北海道インフラPR実行委員会による支援を受けることができます。

※この他の詳細については、催行応募要領をご参照ください。

### メニューリスト

|                 |                            |           |
|-----------------|----------------------------|-----------|
| 1 北光社 坂本直寛顕彰碑   | 開拓の礎となった北光社記念碑の見学          | (所要目安10分) |
| 2 屯田兵人形と信善光寺    | 屯田兵の偉業を伝える人形見学・説明          | (所要目安30分) |
| 3 富里ダム・富里湖(★)   | 施設見学・事業説明                  | (所要目安40分) |
| 4 常呂川第2頭首工(★)   | 頭首工の役割等解説・見学               | (所要目安20分) |
| 5 常呂川第1頭首工      | 頭首工の役割等解説・見学               | (所要目安10分) |
| 6 ピアソン記念館(★)    | キリスト伝導の資料見学・説明             | (所要目安40分) |
| 7 北見ハッカ記念館      | 北見ハッカの資料見学・説明              | (所要目安40分) |
| 8 北海道糖業(株)北見製糖所 | ビートの製糖工場見学・説明(DVD視聴、敷地内見学) | (所要目安70分) |
| 9 玉ねぎ集出荷施設      | 施設見学・事業説明                  | (所要目安40分) |

# ○見学可能な施設



玉ねぎ集出荷施設



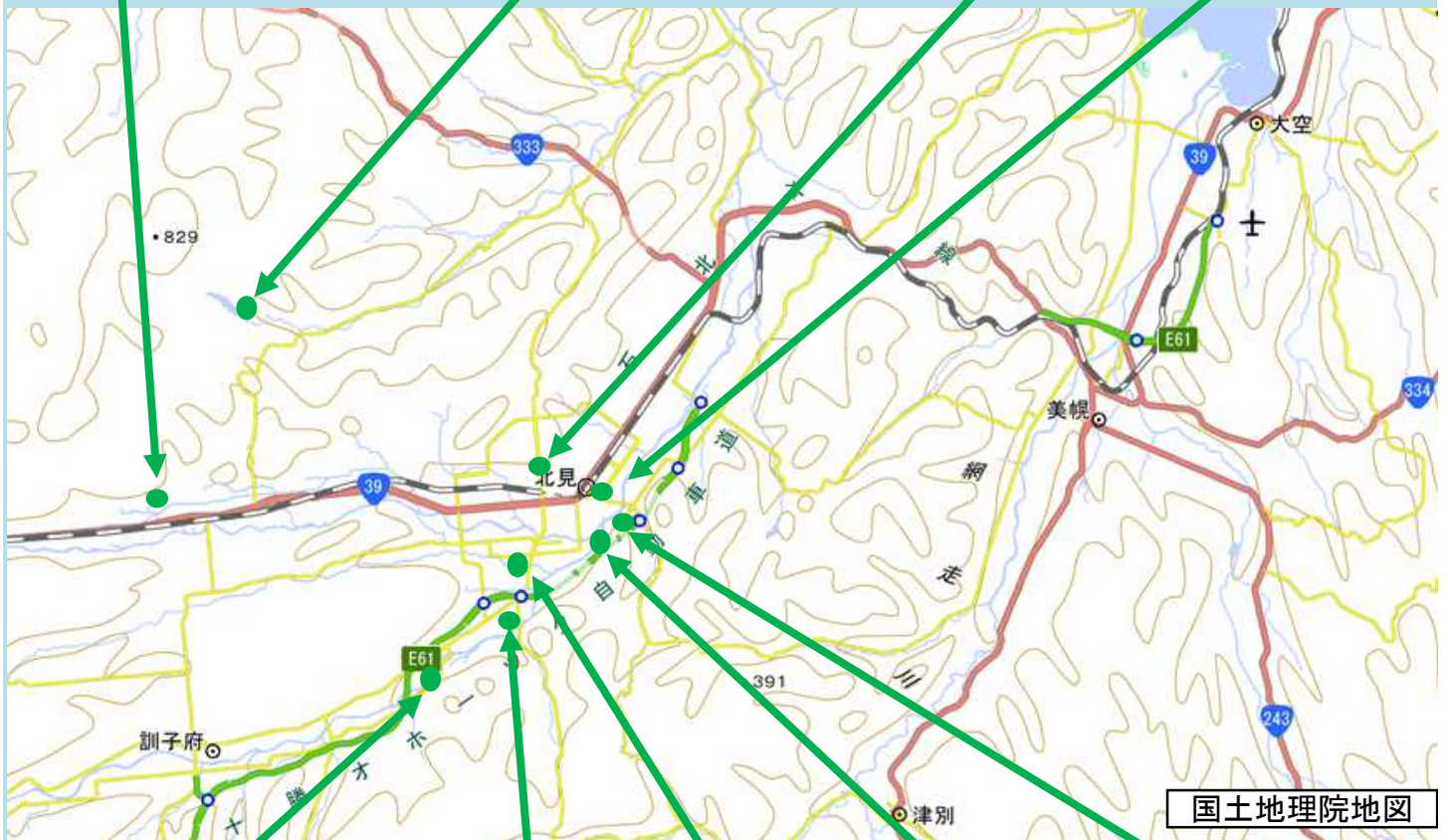
富里ダム・富里湖



ピアソン記念館



北見ハッカ記念館



国土地理院地図

坂本直寛顕彰碑

屯田兵人形と信善光寺

常呂川第1頭首工



北海道糖業(株)北見製糖所



常呂川第2頭首工



# ○ インフラわくわくツアー(釧路編)

【概要】

## “五感で感じよう！「北海道遺産「簡易軌道」とひがし北海道ゲートウェイ「釧路港」を巡る”

### ツアーテーマ 『北海道遺産「簡易軌道」とひがし北海道ゲートウェイ「釧路港」を巡る』

- ◇釧路港は、1899(明治32)年に開港し、普通貿易港(米、麦、石炭、硫黄等)に指定されました。現在は酪農や農業、水産業の盛んな地域に位置する重要な港湾であり、北海道の産業とともに発展し、世界に開かれた港として、様々な役割を担っています。
- ◇釧路港では、飼料となる穀物の安定的供給と安価な輸送を実現するため、大型船舶による大量一括輸送を可能とする整備が行われています(平成23年「国際バルク戦略港湾」選定)。また、ひがし北海道地域の搾りたての生乳や季節ごとの農畜産物が、RORO船(\*)により、釧路港から首都圏へ向けて毎日輸送されるなど、日本有数の食糧供給基地であるひがし北海道の物流拠点として、重要な役割を果たしています。
- ◇また、「簡易軌道」は、道東や道北を中心に「北の大地の開拓を支えた小さな鉄路」として、大正後期から昭和40年代にかけて人々や農畜産物を運び、入植者の生活に重要な役割を果たしていました。この「簡易軌道」は、当時の酪農地域の苦勞と発展を語る上で欠かせない存在であり、地域の発展に大いに貢献したことが評価され、2018(平成30年)に北海道遺産に選定されました。
- ◇現在も、当時の輸送を担った自走客車(ディーゼルカー)や機関車や関連施設が鶴居村をはじめ釧路・根室地域に残されており、地元自治体や博物館、鉄道愛好家等が連携した「地域の歴史を次世代に引き継ぐための取組」が進められています。
- ☆本ツアーでは、ひがし北海道の主要産業である、酪農などを支えてきた「簡易軌道」や「釧路港」を巡りながら、開拓期から現在に至るまでの釧路地域の歴史を学び、産業の変遷とインフラ整備の成果を体感していただけます。
- (\*)RORO船:貨物を積んだトラック等が船尾や船側にあるゲートからそのまま乗り降りできる船舶。

#### 催行予定

令和2年10月～11月上旬(全2回)【平日のみ可】(日程は調整の上決定)

#### ツアー定員

各回10名

#### 諸条件等

- ツアーを企画する際は、以下「メニューリスト」から自由に選択いただけます。ただし、(☆)印のメニューは必須とさせていただきます。この他にもグルメ、観光スポットなど行程に組み入れていただけます。
  - 昼食を入れる際には、地元産の食材(水産物or農産物)を用いた料理を提供するものとしてください。
  - メニューリスト「1」では、月曜日が定休日となり、釧路市立博物館の担当者(学芸員)が解説、ご案内します。
  - メニューリスト「2」では、釧路市立博物館の担当者(学芸員)が解説、ご案内します。  
見学可能な場所が複数地点あるので、タイムスケジュールに合わせて選定できます。
  - メニューリスト「3」では、簡易軌道関係者及び釧路市立博物館の担当者(学芸員)が解説、ご案内します。
  - メニューリスト「4」では、平日のみの対応となり、北海道開発局の職員が解説、ご案内します。  
乗船定員は1回につき5名までとなります。参加者が5名を超える場合は2班交替となり、1班は「4」で船に乗り、もう1班はその間「5」で見学していただきます。
  - メニューリスト「5」では、釧路市水産資料展示室の職員が解説、ご案内します。
- ※催行に当たり、北海道インフラPR実行委員会による支援を受けることができます。  
※この他の詳細については、催行応募要領をご参照ください。

#### メニューリスト

|                       |                           |           |
|-----------------------|---------------------------|-----------|
| 1 釧路市立博物館(☆)          | 釧路地域の暮らしや産業の歴史を見学・解説      | (所要目安45分) |
| 2 鶴居村営軌道廃線跡(☆)        | 北海道遺産「簡易軌道」の廃線跡の見学・解説     | (所要目安30分) |
| 3 鶴居村ふるさと情報館「みなくる」(☆) | 北海道遺産「簡易軌道」の展示見学・解説       | (所要目安50分) |
| 4 釧路港国際物流ターミナル(☆)     | 釧路港の港湾整備状況と港湾活動を船上から見学・解説 | (所要目安60分) |
| 5 釧路市水産資料展示室          | 釧路港と水産業の歴史を見学・解説          | (所要目安60分) |

# ○見学可能な施設

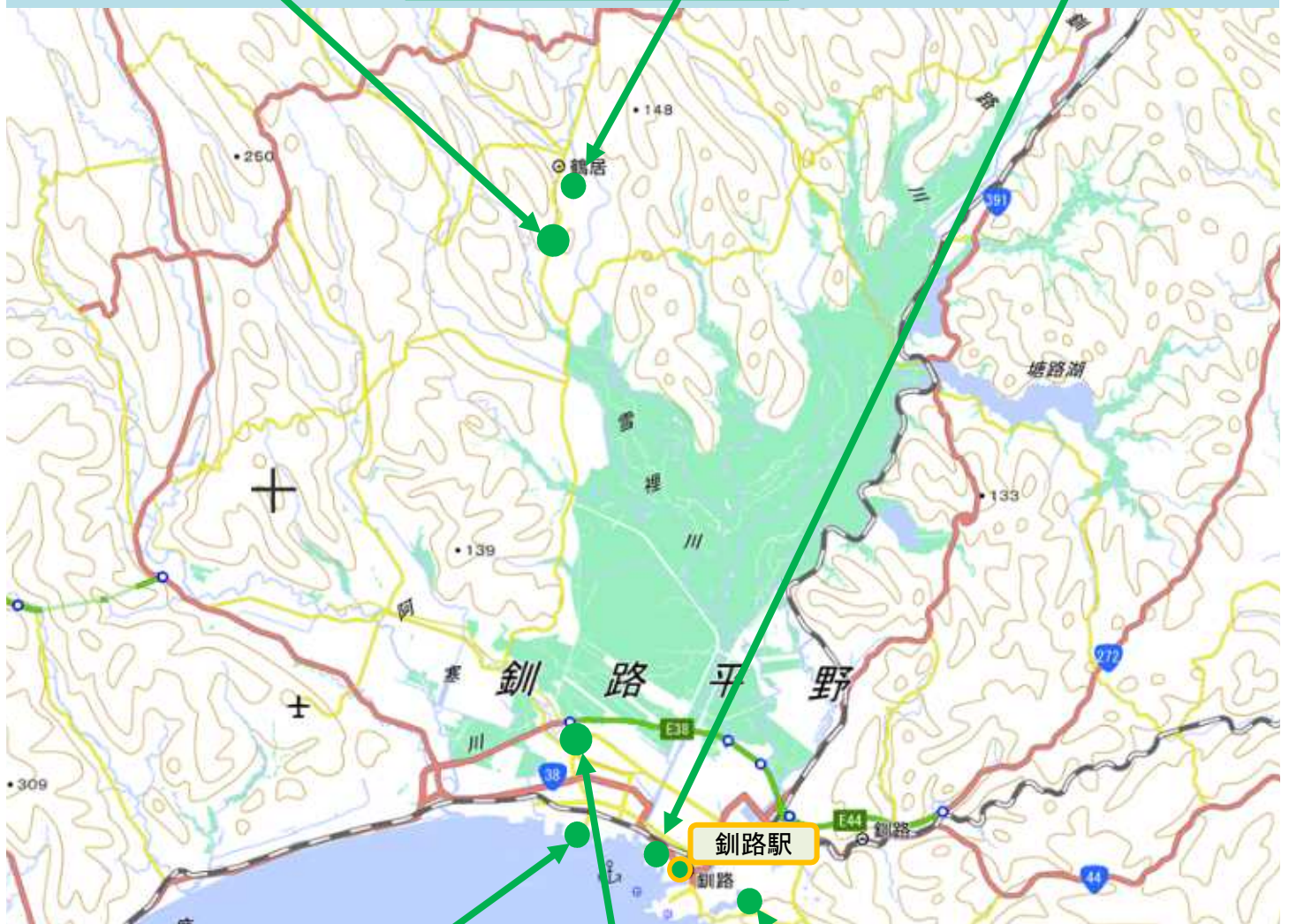


鶴居村営軌道 廃線跡  
(鶴居村下雪裡)

※例示でありこのほかの場所も有

鶴居村ふるさと情報館「みなくる」  
(簡易軌道車両)

釧路市水産資料展示室



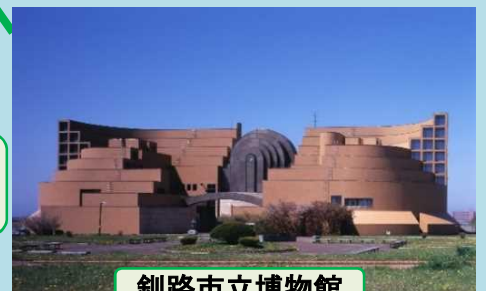
出典: 国土地理院



釧路港国際物流ターミナル

鶴居村営軌道 廃線跡  
(釧路市鶴野)

※例示でありこのほかの場所も有



釧路市立博物館